



## 2. 実績の差異発生及び業績予想の修正理由

### (売上高について)

平成30年6月期第2四半期（累計）につきましては、エリテック社向けOEM製品である全自動遺伝子診断装置の販売は、前年同期を上回りほぼ当初計画どおりに順調に推移いたしました。自社販売については、代理店へのアプローチ活動を強化するなど積極的な営業活動により、前年同期を上回る推移となったものの、自社ブランドの浸透に時間を要し当初計画比では未達となりました。さらに、既存OEM先に対する販売についてはOEM先の営業状況や在庫状況等により大きく影響を受けますが、当期においては低調となったことから、全体として第2四半期の売上は1,721百万円（当初計画比23.5%減）となりました。

平成30年6月期通期につきましては、上記の実績及び下期の販売見直しなどを加味し見直しを図った結果、下期においてはエリテック向け及び自社販売については更なる拡大とOEM先の復調も見込めることから、通期の売上は4,000百万円（当初計画比20.0%減）となる見通しであります。

なお、当社グループの注力分野である全自動遺伝子診断装置の販売や自社販売は、当初計画には及ばなかったものの順調に販売拡大しております。また今後、遺伝子診断装置の新機種を販売ラインナップに追加していくことで更なる販売拡大につなげていく所存です。

### (利益について)

平成30年6月期第2四半期（累計）につきましては、売上高の計画未達に伴い、売上総利益が減少しましたが、積極的にコスト低減に取り組んだほか、100百万円程度の研究開発費が下半期に持越しとなったことなどから、販売費及び一般管理費は848百万円（当初計画比21.5%減）となりました。これらの結果、販売費及び一般管理費の減少分が、売上総利益の減少分を補う形となり、営業利益では当初計画を上回りました。また、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益についても当初計画を上回りました。

平成30年6月期通期につきましては、売上高の計画修正に伴い、売上総利益が減少する見通しであります。一方で、販売費及び一般管理費は、上半期より持越しとなった研究開発費の影響はあるものの、研究開発費を含む費用全般について再検討も行った結果、通期累計としては1,850百万円（当初計画比6.1%減）の見通しとなりました。これらの結果、営業利益は△400百万円（当初計画は△100百万円）となる見通しであります。同様に経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益も修正いたしました。

## 3. その他

### (現在の取り組みについて)

現在、当社技術により開発した全自動遺伝子診断装置に関して、エリテック社に続く新たなOEM先の獲得に向けて、複数の会社と水面下で交渉を進めております。近い将来、こういった活動の中から新たなOEM先獲得の可能性は高いものと考えております。

一方で、DNA自動抽出装置に関する自社販売も積極的に推進しております。国内やタイなどで実績があがりつつあり、今後は欧米や中国をターゲットとした活動を強化していく所存です。また、全自動遺伝子診断装置に関しても、自社販売用の新機種として「gene LEAD VIII」とそれに搭載するための遺伝子診断薬の製品化を進めております

さらに、株主であります㈱日立ハイテクノロジーズとの業務提携に関しましても、同社の販売網の活用や新機種開発等に関し計画に基づき両社で進めております。

上記のような一連の活動により早期の業績向上を目指して参ります。

※通期見通しの業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上